

みんなと学ぶ 理科・生活

き せ つ
季節と

生きもの

なつ
夏

梅雨から夏の植物観察
この季節ならではの
テーマで近付こう！

春

夏

秋

冬

教科との関連

理科 3年「しぜんのかんさつ」

4年「季節と生き物」

生活 「あそびにいこうよ」

教授用資料

本資料は、「教科書発行者行動規範」に則ったものです。



学校図書株式会社

今回は、夏の植物観察についてご紹介していきます。6月は梅雨で雨が多く、7月、8月は暑いいため、野外で活動するのは大変な季節ですが、この季節だからこそ楽しめる観察は多くあります。
梅雨時と、真夏の観察を、それぞれ楽しんでください。



① 梅雨の楽しみ方

植物は根ざした場所から移動することができないので、雨が降ってもその場に居続けるしかありません。人の感覚からすると大変に感じてしまいますが、植物にとって、雨はとても重要です。梅雨時は、雨を巧みに利用している植物が多くいますので、雨をテーマに観察をしてみましょう。

ユウゲショウ



梅雨時の観察でお勧めなのがユウゲショウです。アスファルトの道路沿いでもよく生える植物で、5月頃にピンク色の花を咲かせたら、すぐに果実になっていきます。



この果実は、6月頃になると熟して茶色くなるのですが、じつはこれ、晴れた日と雨の日とで見た目が随分変わります。晴れた日は、先が太くなる棍棒状なのに、雨の日に見に行くと、花のように広がった姿になるのです。

ユウゲショウの果実には、雨に濡れると開くという不思議な性質があります。濡れて上向きに開いた果実のなかには、たくさんの種子が

入っていて、そこにまた雨があたると、雨粒と一緒に種子がこぼれ落ちていきます。

地面におちた種子は、雨と一緒に運ばれて、土があるすき間へとたどり着きます。ユウゲショウは雨を利用して分布を広げていく植物なのです。

晴れの日の果実



雨の日の果実

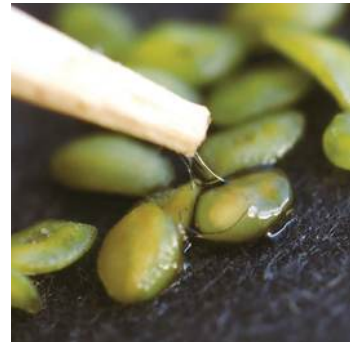


オオバコ



葉っぱを放射状に広げる姿が特徴のオオバコ。これもまた雨を利用して分布を広げていく植物です。6月頃のオオバコに近付いて観察すると、カプセル状の果実がたくさんついていることが分かります。これはちょっとした刺激でパカッと割れるようになっていて、なかには種子が入っています。

この種子は、水に濡れると粘る性質があります。ですので、雨上がりに人が踏むと、種子が靴の裏にくっつき、遠くへ運ばれることになります。



種子は水に濡れると粘りがでる。

カラスムギ

ちょっとおもしろいのがカラスムギ。イネ科の草で、果実に芒（のぎ）とよばれる棒状のものが直角に曲がりながらついているのが特徴です。

この芒は、つけ根の黒い部分でねじねじとねじれています。雨に濡れると、芒が回転しながらねじれがほどけていきます。この際、芒が回転するので、それに合わせて果実も回転します。

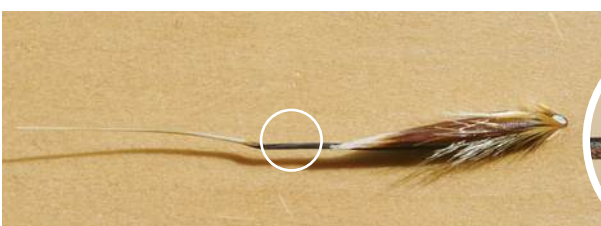
この回転運動で、果実が土に潜っていくという観察例があるようですが、私はまだそれは見たことがありません。ただ、芒が回転することで果実が移動することは確かなので、雨に濡れて自力で移動する能力は確実にありそうです。



ねじれている



乾燥している時の芒は直角に曲がっていて、黒い部分がねじれている。



ほどけていく



水に濡れると、芒が回転しながらねじれがほどけていく。



このように、梅雨時には、雨が降ることを利用する植物があります。雨と植物の関係をテーマに観察したら、ほかにも思わぬ発見があるかもしれません。

②夏の楽しみ方

開花時刻を確かめよう！

夏は、日中に野外で観察をするには大変な季節ですが、幸いなことに、夏の花は、まだ涼しい朝か夕方に咲くものが多くあります。開花する時刻が不思議と決まっていることがあるので、「花が咲く時刻を調べる」という観察を楽しむことができます。開花する時間順に紹介しますので、近くで確かめてみてください。

4 時頃 フヨウ



5 時頃 アサガオ



6 時頃 ツクサ



15 時頃 ハゼラン



16 時頃 オシロイバナ



18 時頃 カラスウリ



20 時頃 メマツヨイグサ



これは、私が実際に7月末から8月上旬にかけて確かめた内容です。観察する時期や場所、個体によって開花時刻は変わるはずですので、みなさんにも実際に観察してみたいと思います。

ところで、夏の花はどうして朝か夕方に咲くものが多いのでしょうか。これには、虫の活動と関係があるのではないかという考え方があります。

夏の暑い日中は、虫は活動を抑えて、朝か夕方以降によく活動します。花の多くは、虫に来てもらって花粉を運んでもらうために咲くので、虫が活動しない日中に花を咲かせてもあまり意味がありません。ですので、虫が活動しやすい朝か夕方にあわせて花を咲かせるようになったのではないかという考えです。

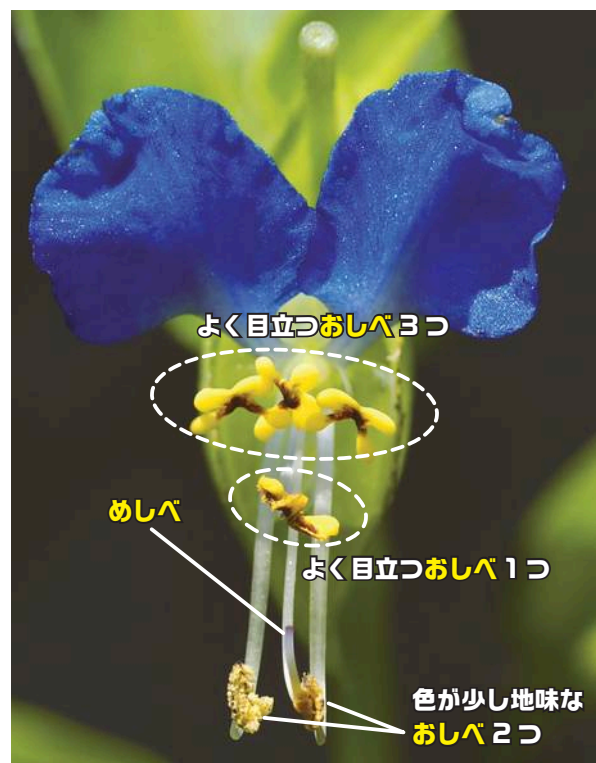
夏の花の工夫を観察しよう！

開花時刻を観察したら、つづいて、花の仕組みを詳しく観察することもお勧めです。夏の花には様々な工夫があるので、いくつか例をご紹介します。

ツクサ

朝6時頃に満開になったツクサの花を観察すると、様々な形の雄しべがついていることが分かります。

写真を見ながら、確認してみてください。花の中央部には、よく目立つ雄しべが3つ、その下にこれまたよく目立つ雄しべが1つ、そしてその下にちょっとだけ地味な色をした雄しべが2つと、その真ん中に雌しべが1本あります。



じつはこのうち、一番上にあるよく目立つ雄しべ3つから出る花粉は交配能力を持ちません。つまりこれは、偽物の雄しべなのです。虫がこの雄しべの花粉を運んで受粉が行われたとしても、ツユクサは果実をつけることができません(ただし、虫の食料にはなるようです)。

そんなことでいいのか、と思ってしまうのですが、これはツユクサの作戦です。

この目立つ雄しべの役割は、虫をおびきよせること。偽物だけどよく目立つ雄しべに虫が集中していると、そのお腹あたりに交配能力を持つ花粉がくっつきます。その虫が、ほかのツユクサの花に飛んでいくと、虫が気付かぬうちにツユクサの受粉が行われ、果実をつけることができるのです。

ここまででも驚きですが、ツユクサにはさらにもうひとつの工夫があります。

この花は昼頃にはしぼんでしまうのですが、この時に花の様子をよく見ると、雄しべと雌しべが一緒にクルクルまいていることが分かります。じつはこの時、自分の花の雄しべが、自分の花の雌しべにくっつき、受粉が行われています。

ツユクサは、開花時には虫に花粉を運んでもらい、もしそれが失敗したとしても、自分の花のなかで自力で受粉を行うという技もあわせ持っているのです。



本物の雄しべには、花粉がたくさん。



昼頃にはもうしぼんでいるツユクサの花。



自分の雄しべの花粉が、自分の雌しべにくっついている。

オシロイバナ

オシロイバナは16時頃に咲き、翌朝はやくに花を閉じます。どのように花を閉じていくのかを観察していると、ツユクサと同様、閉じる時に雄しべと雌しべを一緒にくるくるまいていっていることが分かります。こちらも、夜の間に虫による受粉が行われなくても、自分の花のなかで受粉が行える仕組みになっています。



カラスウリ

花の先がレース状になっている姿がとても個性的なので、真正面からばかり花を見てしまいがちですが、花を横からみると、花の筒がとても長いことに驚かされます。花の蜜は、この筒の一番下に入っています。虫がこの花の蜜を吸うためには、長い口が必要となります。しかも、カラスウリが咲くのは夜です。いったい花を訪れるのはどんな虫なのでしょう。



カラスウリの花が咲いている間ずっと見守っていると、ふっとスズメガの仲間がやってくることがあります。この虫は羽根を高速回転させて空中で停止することができます。さらに口がとても長いので、空中で停まりながら、花のなかに口を伸ばしていくことができます。

夜にこんな芸当が出来るのはスズメガの仲間くらいなので、カラスウリとスズメガの間には密接な関係があると言えます。



秋と冬の観察を先取りしよう！

真夏に観察をしていると、この暑い季節は本当に終わるのだろうかという気持ちにもなってきますが、植物はじつはやくも秋と冬の準備をしています。夏真っ盛りに、先の季節の観察をすることも、夏の植物観察の楽しみのひとつです。

ハナミズキ



春に白やピンクの花を咲かせていたハナミズキ。夏は、葉っぱだけの姿になりますが、じつはよく見ると、枝先のあたりに緑色の若い果実がついていることが分かります。秋になると赤く熟す果実が、もうすでに準備されているのです。夏に着々と進む、秋の準備です。



コブシ



早春に白い花を咲かせていたコブシ。夏になると、これまた葉っぱだけの姿になりますが、枝先に注目すると、白い芽を見つけることができます。じつはこれは、花の芽です。まだ夏なのに、もう翌年の早春に花を咲かせるための芽がついているのです。しかも寒い冬にそなえて毛をたくさん生やして防寒対策まで施されています。暑い夏に、来たるべく冬の準備をしている、用意周到な木です。

スギ



スギも、夏に見ると葉っぱで緑一色ですが、よく見てみると、葉っぱとはちがう楕円形のものがついていることがあります。これも花の芽です。このなかには花粉がたくさん入っていて、春になると花粉が外に飛び出していきます。暑い夏に、もう翌年の春の準備が進んでいます。



ほかにも、コナラのどんぐり（果実）が青々と実っていたり、イロハモミジのプロペラ（果実）がすでに大きくなっていたりと、夏にすでに先の季節の準備が進んでいるものは多くあります。意識して探せばいくらでも見つかりますので、ぜひ探してみてください。

コナラ



イロハモミジ



こんな調子で、夏でもテーマを定めれば、植物観察は行うことができます。熱中症には気をつけつつ、楽しんでいただければ嬉しいです。

2026 年 6 月発行

発 行 学校図書株式会社

〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町 2 丁目 23 番地 1

TEL:03-6285-2916

URL:<https://gakuto.co.jp>



すずき じゅん

鈴木 純 (執筆・写真)

植物観察家。まち専門の植物ガイドとして、都市環境をフィールドとした植物観察会を数多く実施している。主な著書に『そんなふう生きていたのね まちの植物のせかい』（雷鳥社）『シロツメクサはともだち』（プロンズ新社）『身近な草の生き方観察 12 か月』『身近な樹木の生き方観察 12 か月』（文一総合出版）『冬芽ファイル帳』（小学館）『子どもかんさつ帖』（アノニマ・スタジオ）など。東京農業大学非常勤講師。

